

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4090500093
法人名	社会福祉法人 双葉会
事業所名	グループホーム 双葉荘
所在地	北九州市小倉南区高野3-11-1 (電話) 093-451-2851

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	21年 2月 25日
評価確定日	21年 4月 10日

【情報提供票より】 (平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	22,500 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	650 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,650 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健和会大手町病院 小倉記念病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古い住宅街の一画にあり、平成20年5月に開設された地域密着型介護老人福祉施設に併設されたグループホームである。明るく広々とした居室や浴室がある豪華な造りの事業所で、家族の来訪時に、個別に談笑や食事ができるゲストホールや宿泊ができるゲストルームを設け、家族に対しても行き届いた支援をしている。「利用者の心や思いを汲み取り、利用者一人ひとりのその人らしいゆったりとした暮らしを大切にすること」をモットーとして運営しており、母体法人が60年間に渡って地域社会の福祉に寄与してきたことを原点として、新たな地域社会のニーズにかなったケアの実践に携わっている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で十分検討して取り組んでいる。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>定期的開催し、事業所の現状や今後の取り組みについて報告している。また委員から意見を聞いて、サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	<p>家族が来訪した時には職員は介護記録を基に利用者の日々の生活状態を報告している。少なくとも、利用者の担当職員が1ヶ月に1回、家族に電話をして、家族からの要望を聴くなどし、信頼関係を築いている。また、運営推進会議の委員に利用者の代表と家族の代表を選び、意見を出しやすい体制を作っている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>年4回の地域の清掃活動に参加したり、夏祭りに利用者と参加して楽しく交流している。事業所の見学会を行っており、100名以上の参加者があるなど、地域への周知にも努めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分自身がここに入居し、生活をしていきたい気持ちになるかをいつも考える」という事業所独自の理念があり、さらに地域密着型の視点を含んだ4項目の具体的な運営方針を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は月1回のミーティングの中で理念・方針について職員が理解を深めるよう努めている。職員は利用者との関わりやケアの時にも、理念を確認し実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年4回の地域の清掃活動に参加したり、夏祭りに利用者に参加して楽しく交流している。事業所の見学会を行っており、100名以上の参加者があるなど、地域への周知にも努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で十分検討して取り組んでいる。外部評価は今回が初回である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。事業所の現状や今後の取り組みについて報告し、委員から意見を出して貰いサービスの向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と連携があり、情報を提供して貰ったり、相談をしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について利用者、家族には利用時に説明している。また職員は内部研修をして周知徹底を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した時には職員は介護記録を基に利用者の日々の生活状態を報告している。利用者の担当職員が1ヶ月に1回、家族に電話をして、家族からの要望を聴くなどし、信頼関係を築いている。金銭管理については、確認書を送付し、領収書原本を家族に渡している。	○	事業所便りを発行し、手紙等でも利用者の暮らしぶりや状態などを家族に伝えるようにして欲しい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の委員に利用者の代表と家族の代表を選び、意見を出しやすい体制を作っている。また相談や苦情を受け付ける職員を明確にし、家族の来訪時や電話連絡の際にも声かけし、家族から意見を貰えるよう努めている。今まで出た要望には、適切に対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動を最小限に抑えるように努力している。また異動は法人施設内で行う等、職員の働きやすい環境づくりに配慮している。やむを得ず離職する場合には、引き継ぎ期間を十分取るようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の年齢は幅広く、採用にあたっては、性別・資格の有無で制限していない。個人の意欲を尊重し、能力が発揮できるように資格取得のための支援体制も作っている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育の重要性を認め、全職員で人権に関する学習会を行っている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の年間計画を立て、職員の内部・外部研修への参加の機会を設けている。またケアの実践を行いながら、資格の取得を積極的に勧めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>昨年、認知症のためのケアマネジメント・基礎研修会を開催し、九州全県の同業者と交流を図った。</p>	○	<p>研修会を機に、さらに他の事業所への見学や職員同士の交流の機会をつくり、サービスの質の向上を図ってほしい。</p>
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者や家族に事業所を見学して貰ったり、職員が自宅に向いたりして事業所についての説明を行う等、利用者及び家族が安心して利用できるような努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や洗濯等を共に行ったり、職員が知らない生活の技や生活文化の大事さを利用者から教えて貰う場面がある。利用者と喜怒哀楽を共にし、時間を共有することで支え合う関係づくりに努めている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、支援している。また意思疎通が困難な利用者には、家族などから情報を得るようにし、本人本位に検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員の意見や家族の意見を集約して、計画作成担当者が居室担当者と話し合いながら、一人ひとりの状態にあった介護計画を立てている。家族には来訪時に意見を聴き反映させている。また介護計画書には家族の署名押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、3ヶ月毎に行っている。また、利用者の状態の変化に応じて、その都度、見直している。家族には電話で報告したり、関係者と話し合いながら現状にあった計画を立てて対応している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院時には早期退院の支援ができるように、家族と共に看護師や主治医に話を聞くようにしている。また退院時にも情報収集に努め、適切な対応ができるようにしている。通院の送迎は、家族と相談し、柔軟に対応している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望する医療が受けられるよう、基本はかかりつけ医に受診している。また、家族や利用者の希望があれば、地域の医療機関の訪問診療が可能になっている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアのマニュアルは準備されている。事業所の方針については、現在検討中である。	○	事業所としての重度化した場合や終末期のあり方について、管理者と全職員、関係者で話し合う機会を設け、方針の共有を行ってほしい。また、利用者や家族にも説明してほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように配慮しながら、言葉かけや対応を行っている。個人情報の取り扱いについても、会議で確認したり、プライバシーや人権についての内部研修を行っている。テキストや資料、会議録がある。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人本位の暮らしができるよう、食事の時間や入浴等も自由に選択できるようにしている。どのように過ごしたいかを聞いたり、提案したり、意志の表出が難しい利用者は、行動を察しながらできるだけ日々の暮らしが充実するように支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、一緒に食事の準備や味付け、後片付けをし、同じものを同じテーブルで食べている。毎月の献立は決まっているが、利用者の要望に応じて柔軟に対応している。季節のものを利用したり、誕生日会にお祝いのケーキを付けるなど、食事を楽しめるよう工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、いつでも入ることができる。開放的で広い空間が介護しやすい構造になっており、入浴を十分楽しむことができる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の味付けや裁縫、洗濯物をたたむ、干す、取り込む、金魚の餌やり等、できることをしてもらっている。さらに、利用者の生活歴や能力を発揮できるような機会を作っていく方針である。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は週に3～4回、買い物は週に1～2回、外食は3～4ヶ月に1回、ドライブは3ヶ月に1回の割合で行っている。3月には梅見や、花見を計画している。戸外にできるだけ出かけるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に施錠はない。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の外出傾向を把握し、見守り体制ができている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画書や非常災害時対応マニュアルがあり、年2回消防避難訓練を行っている。また次年度は事業所全体で地域にも呼びかけて、消防署と協力して実施する予定である。非常用食料や飲料水を準備している。	○	次年度の予定どおり、地域住民に避難訓練へ協力の呼びかけを行ってほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは毎月の献立を栄養士が管理し、配慮している。また、介護日誌に毎日の食事摂取量と水分摂取量が明記されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の居間は広く天井には天窓があり、やわらかい自然光が差し込んでくる。廊下も広く、家具・調度品等モダンな雰囲気である。また畳の部屋や家族が来訪したときに個別で過ごす場所もある。ゲストルームがあり、宿泊も出来る。利用者はもちろん家族、職員にとっても居心地の良い空間になっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の家具、お気に入りのものや仏壇、家族の写真等も飾られ、落ち着ける居室になっている。また、個室は広く、掃きだし窓になっており明るい。洗面所やトイレが個室についており、快適に過ごせる工夫がなされている。		

※      は、重点項目。